

セムコープ・インダストリーズ(SCIL)

シンガポール最大の多国籍再生可能エネルギー企業として海外都市開発との一体的取組みが成長を後押しへ
 シンガポール | 発電所 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG KEP:SCI | REUTERS SCIL.SI

- 11/14発表の2019/12期3Q(1-9月)は、売上高が前年同期比20.0%減、営業利益が同5.5%増、純利益が同8.7%増だった。
- 海洋掘削事業に係る収益減少が響き減収となったが、再生可能エネルギー発電能力が拡張したエネルギー事業が増益に貢献した。
- シンガポール最大の多国籍再生可能エネルギー企業として海外における都市開発との一体的な取組みが成長を後押ししよう。

What is the news?

11/14発表の2019/12期3Q(1-9月)は、売上高が前年同期比20.0%減の73.01億SGD、営業利益が同5.5%増の6.56億SGD、純利益が同8.7%増の2.62億SGDだった。ただし、赤字の海洋掘削事業を除くベースの調整後純利益は同3.1%増の3.00億SGD。主に海洋掘削事業に係るリグ・浮体式設備・沖合プラットフォームのプロジェクトからの収益減少により減収となったものの、エネルギー事業の貢献により増益を確保した。

セグメント事業別の純利益は以下の通り。エネルギー事業は同4.9%増の2.58億SGD。バングラデシュやミャンマーの新たな電力資産および中国の再生可能エネルギー発電能力の追加・拡張のほか、インドのSECIやSECLの風力発電プロジェクトの進展が増益に寄与。都市開発事業は同43.4%減の3,000万SGD。ベトナムは安定的に推移したものの中国の減益が響いた。海洋掘削事業は前年同期の▲5,000万SGDから▲3,800万SGDに赤字幅縮小。5.00億SGDの目標で2018年初に開始した資産売却プログラムが5.50億SGDに達してバランスシート面が強化され、新規に獲得した浮体式海洋石油ガス生産設備プロジェクトとリグ運搬からの粗利率は改善したものの、事業全体の取扱量減少が響き赤字にとどまった。

How do we view this?

同社の今後の見通しは、エネルギー事業および都市開発事業が業績を伸ばす一方、海洋掘削事業は厳しい環境が続く2019/12通期でも赤字になると予想している。筆頭株主のテマセクHDSは同社の他に**ケッペル(PEP)**など海洋掘削事業を営む他の企業の筆頭株主でもあり、事業統合など将来的な経営挺入れが期待されよう。同社は全世界で熱出力、再生可能エネルギー、廃棄物処理エネルギー、および蓄電池から既に12,200MW(メガワット)/日の発電能力を有し、風力および太陽光の発電能力は全世界で2,600MW/日以上に及ぶ。更に、360MW/日の再生可能エネルギー蓄電池を開発中である。ベトナム、イギリス、欧州でも事業展開するシンガポール最大の多国籍再生可能エネルギー企業として成長が期待されよう。ベトナムではBecamexとの合弁企業であるVSIP(ベトナムシンガポール工業団地)を核としてエネルギー事業と都市開発事業との一体的取組みの進展が注目される。2019/12通期市場予想は売上高が前期比18.7%減の95.06億SGD、当期利益が同1.6%増の3.52億SGD。

業績推移

※参考レート 1SGD=81.81円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
売上高(百万SGD)	7,907	9,026	11,689	9,506	9,607
当期利益(百万SGD)	394	383	347	352	431
EPS(SGD)	0.20	0.19	0.17	0.21	0.25
PER(倍)	11.20	11.79	13.18	10.67	8.96
BPS(SGD)	3.30	3.32	3.36	3.94	4.09
PBR(倍)	0.68	0.67	0.67	0.57	0.55
配当(SGD)	0.08	0.05	0.04	0.05	0.06
配当利回り(%)	3.57	2.23	1.79	2.23	2.68

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) **0.05** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **2.24** 2020/1/20

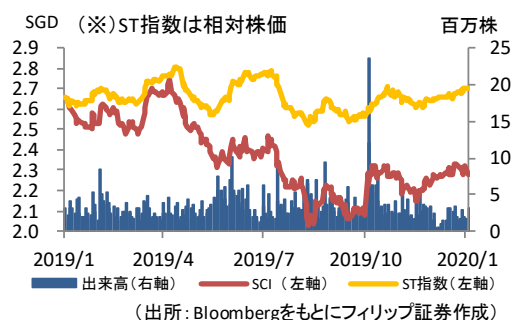
会社概要

1998年に2つの政府系コングロメイトの合併によって設立。最も古い前身は1963年に設立したシンガポール初の商用造船所であるJurong Shipyardである。エネルギー事業、海洋掘削事業、都市開発事業の3事業を展開している。

①エネルギー事業は、12,200メガワット/日を超える発電能力および約880万立方メートル/日の上下水道処理能力のエネルギーポートフォリオを持つ。また、再生可能エネルギー、環境に係るソリューション、上下水道、および廃棄物処理なども手掛ける。シンガポールのほか東南アジア、中国、インド、英国、その他の地域で事業展開している。②海洋掘削事業は、シンガポール証券取引所のメインボードに上場されている子会社のSembcorp Marineを通じて展開。シンガポール、インドネシア、ノルウェー、英国、米国、ブラジルに造船施設を持ち、リグやフロート、洋上プラットフォームや専用船などを提供している。③都市開発事業は、ベトナム、中国、インドネシアで工業用、商業用および住宅用の土地開発を行うほか、シンガポールなどで大型マンションをはじめとする不動産の開発を行っている。

企業データ(2020/1/21)

ベータ値 1.14
 時価総額(百万SGD) 4,065
 企業価値=EV(百万SGD) 15,567
 3か月平均売買代金(百万SGD) 7.5



主要株主(2020/1)

(%)
 1. テマセク・ホールディングス 49.58
 2. DIMENSIONAL FUND ADVISORS LP 1.95
 3. VANGUARD GROUP 1.58
 (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>